

社会保険労務士稲門会会報

都の西北

第11号

2008年3月1日 発行：社会保険労務士稲門会
発行人：藤原 久嗣 編集人：和田 泰明

第7回・講演と懇親の夕べ 2007年12月1日（土）

2007年12月1日（土）午後3時より「ホテル銀座ラフィナート」にて、「第7回講演と懇親の夕べ」が開催されました。2001年7月に社会保険労務士稲門会が設立され、その年に第1回の「講演と懇親の夕べ」を実施してから今回で7回目の開催となりますが、この度は日本賃金学会会長の平野文彦先生（日本大学経済学部教授・稲門出身）を講師にお招きすることができ、経営労務のグローバルな動向という時宜を得た講演テーマでもあったことから、大勢の会員の皆様にご出席いただき、盛況のうちの開催となりました。



第1部・講演の部

第1部・講演の部は、ホテル銀座ラフィナート「月光の間」にて、香川忠成幹事（埼玉会）の司会のもと、藤原久嗣会長（東京会）の開会の辞に続いて、講師である平野文彦先生に、「企業における労務管理のパラダイム変化ーヨーロッパにおける変質から考える」というテーマで、1時間あまりご講演いただきました。

プロジェクトを使った先生のご講演は、内容的にも、実際にご自身が先の欧州滞在などにおいて見聞きしたケースを織り込んだもので、たいへん具体的で分かりやすく、また、それらを通して今後の企業における労務管理のあり方の方向性を示したものであり、参加された会員の皆さんの今後の業務に資するところが大きいであったものと思われま

※題字は小林昌尚顧問（初代会長）の筆によるものです。



平野先生のプロジェクタを使っでの講演。



先生の講演を熱心に聞き入る会員諸氏。

平野文彦先生の講演内容

企業における労務管理のパラダイム変化
－ヨーロッパにおける変質から考える実際例

平野文彦先生のプロフィール

1969年早大第一商学部卒。1974年大学院修士課程修了。専門は経営学。横浜商科大学に25年間。助教授、教授、商学部長を経て、2003年4月より日本大学経済学部教授。この間、早稲田大学社会科学部にて非常勤講師として賞金論を担当。日本賞金学会会長。

1. はじめに
スイス・ジュネーブを中心にヨーロッパに身を
おいての研究活動(環境問題と経営学)を通して
2. ヨーロッパにみる経営労務の風景
 - 1) 日曜日はスーパーは営業しない
 - 2) スーパーのレジの長い列が消えた
 - 3) ローコスト・エアラインの活況
3. おわりに
 - 1) 「労働条件」管理か「労働環境」管理か
 - 2) 賞金条件を外し「人」の効率活用を追究
 - 3) 労働の苦痛は取り除く
 - 4) 「人」それぞれの個性と能力を発現させる
 - 5) ビジネスの基礎は人々の生活向上提案
 - 6) ビジネスの寿命を縮める人件費削減
 - 7) 顧客満足（CS）と従業員満足（ES）と
素材満足（MS）

第2部・懇親の夕べ

第2部・懇親の夕べは、ホテル銀座ラフィナート「日光の間」に会場を移し、第1部に引き続き香川忠成幹事の司会のもと、住吉忠男副会長（東京会）の開会の挨拶、中島浩喜副会長（愛知会）の乾杯の音頭で歓談に移り、途中、新入会員・初参加会員の方々にも自己紹介やご挨拶いただき、会員同士の懇親を大いに深めました。

こうして会は終始なごやかな雰囲気の中で進行しましたが、その間に、蒲生秀晴副幹事長（東京会）からのホームカミングデーにおける「年金労務相談コーナー」の出店報告、研修委員長である二宮孝常任幹事（東京会）からの第3回・第4回「勉強会」実施報告など、当会の最近の活動報告、中島浩喜副会長からの愛知会の活動報告、林智子副幹事長（東京会）からの東京会の活動報告など各都県会の活動状況報告などが行われました。

また、藤原久嗣会長から、2008年4月から稲士会の四土業合同で母校に提携講座を開設することが先の稲士会総会で確認され、稲士会会長に藤原会長が就任したことの報告もされました。

これらが終わって、会員諸氏お待ちかねのビンゴゲームが行われ、会は一気にその盛り上がりの度合いを高め、楽しい時は流れて感興醒めやらないうちに終了予定時刻となりました。

そして最後に、蒲生副幹事長の指揮により全員で校歌を斉唱し、堀口利副会長（東京会）の閉会の挨拶をもっていったん中締めとなりましたが、引き続き同会場で行われた2次会にもほとんどの会員の皆さんがそのまま参席し、しばし歓談のときをすごした後に、会は無事お開きとなりました。



会場の各所での弾む歓談。



新入会員も自己紹介を。



盛り上がったビンゴゲーム。

平野先生のお話で 興味深かったこと 考えさせられたこと

稲門社労士

欧州滞在から帰国されて間もない平野先生のお話は、海外の労務管理の変化の動向をとり上げていて、とりわけ、ヨーロッパにみる経営労務の“風景”というお話が、具体的事例を以って語られて非常に興味深く、また面白いながらも考えさせられる点の多いものだった。

1つはヨーロッパのスーパーマーケットの例。ヨーロッパの主要都市では、スーパーは日曜日には営業しないとのこと。従業員がそれぞれの生活を大切にしているためだそう。日本ならば、平日より時給を高くすれば労働力は確保できるという前提に立つ。それでも働き手がいないときは休日当番制を敷く。つまり、「労働条件の変更」と「苦痛の平等負担」が日本のやり方だが、あちらではそうではないようだ。「苦痛」を「与件」として捉える前に、それを「排除または軽減」することをまず考える。



したがって、売り場のセルフレジ化も進んでいるという。果物などは、単価のついた箱から取り出し、お客が自分で“量り買い”するのだ。お客にとっても、その方がレジに並ぶより時間の節約になり、従業員も助かる。会社も従業員をもっと生産性の高い仕事へ転換できる。そこには、「働かせる」「賃金を抑制する」という発想の前に、「どんな仕事をさせるか」「いかに生産性を上げるか」という発想が常にある。

その究極の成果が、もう1つのケースとして紹介されたローコスト・エアラインの活況である。人件費だけが膨らむ余分なサービスはどんどん省く。客室乗務員も高級感を捨てた制服。こうした気軽な環境であるため、従業員は皆低賃金でも楽しそうに働いているという。発券業務は完全オンライン化し、手荷物も標準化、機内は全席自由席で、使用している機材は150人乗りエアバス同型機で統一。



これを効率よく回すことの結果、曜日や時間帯によっては、ロンドン・ブリュッセル間の航空運賃が片道0.01ポンド、日本円で2円50銭という驚異的な安さになり（ネット検索の結果がスライド表示されたときは、あまりの安さにしばらくはピンとこなかった）、往復しても実質として空港使用料2回分の1万円しかかからない。このため、競争する交通機関であるドーバー海峡を渡るユーロトレインは、今がら空きだそう。

「人」を「人」として活かすということは、働く人の自発性と満足感を確保することである。そのためには、「人」に限りない能率や生産性を要求するのではなく、能率や生産性の高い仕事を創り上げていくのが本筋なのだ。顧客満足（CS）と従業員満足（ES）、それに加えて素材満足（MS）、これらをバランスよく充実させていくことが、今後は、国や企業規模を問わずグローバルな経営労務の指標となっていこう。

私はともすれば、人事・労務コンサルという立場で経営者に関与する際に、こうした視座を相手と共有しようという意識が低かったかもしれない。まずビジネスがあって労務があるのであり、労務があってビジネスがあるのではないという平野先生の結語には、大いに頷かされるとともに、身に滲みるものがあった。

写真はいずれも平野先生が撮影し、今回の講演会で紹介されたものです。

H.C.D.

2007 ホームカミングデー 「年金労務相談コーナー」 出店のご報告

— 2007年10月20日(土) —

2007年10月20日(土)に早稲田大学西早稲田キャンパスで開催された、大学が卒業生を招待するイベント「ホームカミングデー」に、今回も社労士稲門会は、大隈銅像横に「年金労務相談コーナー」を出店、年金記録に関する質問をはじめ様々な相談を受けました。



社労士稲門会では毎年、相談員・お手伝いのボランティアを募集をしています。「年金労務相談コーナー」についてのお問い合わせは、当会事務局まで(連絡先は会報の最終ページをご参照ください)。



なお、今回のホームカミングデーは、翌日の早稲田大学創立125周年記念式典とセット開催されたもので、瀬古利彦、東国原英夫、海部俊樹、渡辺善美各氏ら著名校友を迎えての講演会などもあって例年にもまして多くの校友が集い、また、ブラスバンド行進や応援部、チアリーダーズのパフォーマンスがあり、それぞれイベントに華やかな彩りを添えました。



稲士会

「稲士会」第3回定期総会・研修会開催のご報告

— 2007年11月10日(土) —

四士業稲門会が連絡して結成した「稲士会」の第3回定期総会・研修会および懇親会が、2007年11月10日(土)にリーガロイヤルホテル東京で、各士業から約40名の出席のもと開催されました。

総会では、本年度の会長を務めた網倉義久氏(司法書士稲門会会長)が挨拶、2008年4月から四士業合同で大学に提携講座を開設する方向で計画が進んでいることが発表されました。さらに、次年度の幹事のバトンが、社会保険労務士稲門会に手渡され、当会の藤原久嗣会長が稲士会会長を務めることが決定しました。

第2部の研修会では、内田勝一氏(早稲田大学常任理事)が「専門家の責任」と題して講演し、続いて行われた懇親会では、新たに稲士会会長に就任した藤原会長が、「四士業ならではの内容が今後進んで、より発展させていけるよう尽力したい」と挨拶、最後に全員で校歌を斉唱し、会は無事に終了しました。



稲士会会長に就任、挨拶に立つ藤原会長

勉強会

第4回 勉強会「全社員年俸制と時間外問題」ご報告

— 2007年9月8日(土) 渋谷・勤労福祉会館

研修委員長・二宮 孝

2007年9月8日(土) 午後2時より5時まで、渋谷区神南にある渋谷区立勤労福祉会館の第2洋室において、昨年3月に引き続いて第4回の勉強会が開催されました。

テーマは「全社員年俸制と時間外問題」で、当会常任幹事の 和田 泰明 氏(開業:人事・賃金コンサルタント・東京会所属)に講師を勤めていただきました。

和田氏は、開業前は広告企業の人事部長の経験もあり、社内の実務者に近い立場で解説し、参加者が外部コンサルタントの立場で一緒に考えていく実践的なセミナーとなり、今回初めてパワーポイントを活用した立体的な講義となりました。

内容は、年俸制導入の背景からタイプ別のとらえ方、法的な問題などの理論面での解説から始めて、新しい成果主義人事制度を基盤とした企業の導入事例へと多面的な解説がなされました。

また、適正な時間管理のあり方や裁量労働制と年俸制との関係など、社会保険労務士にとって難しい課題の解決の糸口をつかむ貴重な場ともなりました。(勉強会19名参加)

勉強会終了後は、会館斜め前の渋谷ハルコ店の7階「築地食堂“源ちゃん”」の眺めの良い席で、和田氏を囲み、魚料理を味わいながら皆で懇親を深めました。(15名参加)



「第5回・勉強会」開催のご案内 3月15日(土) 渋谷区立勤労福祉会館

次回の勉強会では、「ポスト適格年金」をテーマにとりあげます。

次回第5回の勉強会は、一般にも関心の高い企業年金制度について、企業での実務経験豊富な当会厚生委員長の 香川 忠成 氏に講師を勤めていただくことになりました。

今回も多くの方に参加していただきたく存じます。

記

【日 時】 3月15日(土) 14:00~17:00(終了後には懇親会を予定しています)

【会 場】 渋谷区立勤労福祉会館 2階第2洋室
渋谷区区神南 1-19-8 (TEL 03-3462-2511)

【テーマ】 「ポスト適格年金—中小企業に社労士が助言するための新企業年金の選択とその対策」

【講 師】 香川 忠成 幹事(さいたま市で開業)
昭和58年3月法学部卒業、安田生命保険相互会社を経て、平成17年開業、現在に至る

【参加費】 1500円(懇親会は4000円程度)当日徴収します。

【申込先】 二宮 孝 TEL: 03-3406-5605

Fax: 03-3406-5396

Mail: ninomiya@personnel-brain.co.jp

会員便り

1年を振り返って

石川 理恵（千葉会）

稲門会に入会して1年たちました。振り返ってみれば、多くの尊敬できる方々との出会いがあり、この出会いに感謝の気持ちでいっぱいです。

稲門会を知るきっかけとなったのはあるセミナーで知り合った方が社労士三田会に所属していることを知ったことです。三田会があるなら稲門会だって存在するに違いないと思ってネットで検索したところ、社労士稲門会のサイトにつながり、さっそく入会申し込みをしました。卒業してから「早稲田に入って良かった」と思うことはたびたびあるのですが、この時も心からそう思いました。入会後は、3月の勉強会、6月の総会、8月の幹事会、9月の勉強会、12月の講演と懇親の夕べ、1月の浅草ツアーと参加を重ねてきましたが、参加のたびに「同じ大学で学んだというつながりは何と心地よいものか」と思います。

私はまだ開業して1年と少し。月15日の監督署での行政協力で精一杯で顧客開拓もままならない若輩者です。こんな私にとって大先輩である皆様のお話を聞くのはとても有意義です。先輩の事務所をお邪魔させていただく機会も何度かありましたが、立派な事務所でご活躍の様子に大いに刺激されます。今は皆様から学ばせていただくだけの状況ですが、いつか会に貢献できるようになるため、努力していこうと思っています。

B型へなちょこ社労士デビュー 高橋 和子（埼玉会）

皆様こんにちは。平成18年開業、19年に入会させていただきました。先の定期総会の場では「船員保険加入歴あります」と語り、懇親会では、宴だけなわで、おもむろに社保事務所からの「復命書」を出し、これって何ですか、教えて下さい！と空気を読まない行動に出たマイペース者です。その節は（それ以後も）諸先輩方には暖かく御指導いただき、本当に有難く感謝申し上げます。

S57年一文（仏文）卒業、2年ほど企業総務部に勤務、結婚退職後15年ほどは子育て中心の生活でした。ただ、ずっと「労働は尊い」が信条で、機会ある毎に様々な現場に飛びこんできました。ディスカウントストアの早朝荷出しでは肉体労働の厳しさを知り、大手スーパーのパートでは、待遇や正社員への不満を言うほどに深まる不思議な絆の仲間ができ、外国人経営者の語学教室では、7カ国の出身講師の考え方の違いに驚いたり振り回されたり。霞ヶ関の省庁臨時職員時代は、国会が紛糾すると徹夜続きで見る見る顔色が悪くなる役人方の過労を思わず心配・・・

やっと家庭中心の時期も一段落、社労士として社会に復帰する事ができ嬉しいです。ただ、かなり錆付いた頭の中身や事務能力は、思うように稼働せず苦戦しています。切れ味の鋭い敏腕先生方の中で、かなり鈍いおばさん社労士ですが、諸先輩方の功績を汚さぬよう、誠実に努力し少しでも成長したいと思います。どうぞ御指導御鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

当会副会長の堀口 利氏（東京会）からは、「ほけない五カ条」「つもりちがい十カ条」「夢」の3つの〈座右の銘〉をお寄せいただきました。堀口副会長は、昭和29年のご卒業で、皆さんの大先輩にあたるかと思いますが、社会保険労務士稲門会の設立メンバーのお一人でもあります。傘寿（八十）を目前にして、常に明るく

元気浚刺、矍鑠たる様は大いに見習いたいものですが、そのお人柄とお元気の秘密は、こうした信条にあるのかもしれない。（編集部記）

進歩ある者は夢がある	反省ある者は進歩がある	実績ある者は反省がある	計画ある者は実績がある	行動ある者は計画がある	目標ある者は行動がある	希望ある者は目標がある	夢ある者は希望がある
------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	------------

その少ないつもりでがんばりましょう	多いたつもりで多いのが無駄	弱いたつもりで少ないのが分別	強いたつもりで強いのが自我	薄いたつもりで弱いのが根性	厚いたつもりで厚いのが面皮	浅いたつもりで深いのが人情	深いたつもりで浅いのが欲望	低いたつもりで高いのが知識	高いたつもりちがいがい十カ条	教養
-------------------	---------------	----------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	----------------	----

五、趣味の楽しさをもち旅の好きな人	四、よく笑い感動を忘れない人	三、ものをよく読みよく書く人	二、人の世話をよくし感謝のできる人	一、仲間がいて気持ちの若い人	ほけない五カ条
-------------------	----------------	----------------	-------------------	----------------	---------

親睦ツアー

会員親睦「新春浅草ツアー」を実施 - 2008年1月26日(土)

浅草寺に地下室があったこと、ご存知でしたか

会報編集部

2008年1月26日(土)、会員親睦のための「新春浅草ツアー」が実施されました。浅草雷門のそばの住吉忠男副会長の事務所に集合した当会員19名は、まず住吉副会長の案内で、隅田川沿い、浅草寺ご本尊示現のゆかりの地・駒形堂へ。推古36年(628年)、漁師の兄弟がここ隅田川で観音像を漁撈にて引き揚げ、それを廷臣・土師中知が拝したのが浅草寺の草創とされ、漁師兄弟と中知の3人を祀ったのが三社権現(浅草神社)とのこと。



続いて昼食は、同じく雷門そばのすき焼き「ちんや」へ。ここは住吉副会長のご実家でもあり、江戸時代は獣医であったことからこの屋号(狎屋)であるとのことですが、明治13年(早稲田大学創立の2年前)に料理屋を開き、明治36年にすき焼専門店になったという老舗の有名店。文明開化と共に一世を風靡した牛鍋の味を今も守り続けているお店で、120余年の伝統の味を堪能し、一同大いに満足いたしました。

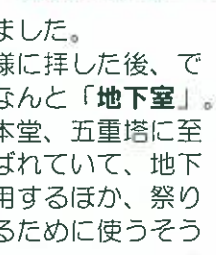


宝蔵門の大草鞋の前で

昼食後、一行は、仲見世、宝蔵門を抜け、いよいよ浅草寺本堂へ。お寺では、住吉副会長から事前をお願いしていたお陰で、普段は一般の参拝客が見ることができない場所をご住職に案内していただきました。



本尊の観音様とその真後ろにある裏観音様に拝した後、ではこちらからとご住職に案内されたのは、なんと「地下室」。実は浅草寺は、雷門から仲見世、宝蔵門、本堂、五重塔に至るまで、地下はすべて地下道と地下室で結ばれていて、地下道は政府要人や外国来賓が参拝する際に使用するほか、祭り行事で人が多すぎるときに僧侶が行き来するために使うそうですが、基本的に一般客用には使われないとのこと。まるで「秘密要塞」の世界でした。



五重塔の前で

本堂からひんやりした地下道を通り、五重塔地下の「絵馬堂」へ行くと、そこには江戸時代に奉納された大きな額の絵馬が展示されており、ここも普段は一般公開していないのを、特別に案内していただきました。

その後、五重塔の中へ。永代供養の位牌がずらりと並び、その間々に仏像が奉納されていました。五重塔をバックに記念撮影した後、さらに伝法院庭園へ。小堀遠州作の回遊式庭園で、庭内の池は心字池といい、「心」という字を表しているとのこと。東京のど真中とは思えない静謐な場所で、一同しみじみと心和ませました。さらに、ご住職から手渡して記念品まで頂戴し、少しVIPになった気分浅草寺を辞去しました。



その後、浅草寺裏手の浅草神社に参って、そこでいったん解散しました。帰りがけに雷門名物「亀十のどら焼」を買った方もおられれば、参加者のうち何人かの方は、吾妻橋を渡ったアサヒビール本社別館の「酒肆吾妻橋」で、「隅田川ブルーイング」の地ビールを味わうなどして、下町三昧の楽しいひとときを過ごしました。

早稲田便り

今、ワセダのスポーツが熱い!! — 各競技で母校選手が活躍

昨年から今年にかけて、母校・ワセダのスポーツ分野での活躍が目立ちます。

まず、2007年10月30日に神宮球場で行われた東京六大学野球秋季リーグ早慶戦で、1年生の斎藤佑樹が慶大打線を完封し7-0で快勝、3季連続40度目の優勝を決めました。

個人競技においても、12月28日に大阪で行われたフィギュアスケート全日本選手権決勝で、4年生の中野友加里選手が女子シングル3位入賞、世界選手権への切符を手にしました。

明けて2008年1月2日の東京箱根間往復大学駅伝では、早大競走部が12年ぶりの往路優勝を果たしました（翌3日の復路とあわせた総合順位では駒大に次いで惜しくも2位）。

また、1月12日に国立競技場で行われた全国大学ラグビー選手権決勝では、早大が26-6で慶大を下し、2年ぶり14度目の優勝、さらに翌13日、同じく国立競技場で行われた全日本大学サッカー選手権最終日の試合でも、早大が2-0で法大に勝ち、13年ぶり11度目の優勝を果たしました。

今年は北京五輪開催年ですが、1年生の卓球の福原愛選手がすでに代表選手に内定しており、その活躍が期待されています。

創立125周年に向けて奥島孝康・前総長が打ち出した「全運動部が日本一」という目標が、「スポーツ科学部」（03年）の新設や「トップアスリート入試」（05年）の実施など全学を挙げたスポーツ分野開拓の取り組みを経て、今まさに成熟期を迎えようとしているのかもしれない。



写真: [左上] 7-0で慶大を完封、六大学野球優勝を決めナインに囲まれる斎藤佑樹【読売新聞社】 / [上右] 全日本選手権エキシビジョンで楽しそうに演技する中野友加里【B.O.S】 / [中左] 箱根駅伝で往路優勝し、ゴールする早大5区の駒野亮太【共同通信社】 / [中右] 26-6の大差で慶大を下し、抱き合って喜ぶ早大フィフティーン【時事通信社】 / [下左] 2-0で法大に勝ち、13大会ぶりの優勝を決めて喜ぶ早大イレブン【サンケイスポーツ】 / [下右] 北京五輪代表に内定し「1つでも多く勝ちたい」と豊富を語った福原愛【時事通信社】

◆◆◆ 社労士稲門会への入会方法 ◆◆◆

社会保険労務士稲門会事務局にまずご一報ください。
事務局から入会申込書をお送りいたします。入会申込書をご提出いただいた後、改めて、年会費（5,000円）振込用紙、会則、会員名簿をお送りいたします。
連絡先：下記、「事務局」まで URL: <http://www.sr-waseda.com>

新会員をご紹介下さい!!

仲間を探しています。社会保険労務士としてのつながりの輪を日本中に大きく広げていきたいと思えます。是非ご協力下さい。

【発行】社会保険労務士稲門会 《事務局所在地》

〒104-0061 東京都中央区銀座3-10-4
共同ビル新銀座5階
ヒューマンデック経営研究所内
TEL 03-3543-6326
FAX 03-3543-6169

編集後記

おかげさまで無事に会報第11号を発行することができました。
ご寄稿・ご指導いただいた方々、広報委員の皆さん、ご協力ありがとうございました。当会報は会員の皆様と一緒に作りあげていくことを趣意としています。これからもご協力のほどよろしくお願い申し上げます。
(広報委員長・和田)